

日本スラ・スラ道

発行 会長 野口宏水

ホームページ <http://jamja.hp.infoseek.co.jp/>

大会 2 日目の開会式（秋田県立武道館）

大会2日目の開会式 (秋田県立武道館)

会長 野口宏水

明けましておめでとうござ
います。本年も皆様にとりま
して 柔道を通じ 良い年と
なりますようお願い申し上げ
ます。

昨年10月17日より3日間

北は北海道
南は九州
特に本大会
は日本マス
ターズ大会
創設第5回



記念国際大会と銘打ち広く海外へ呼びかけました処、ニューヨークより15人、ブラジルより2人を迎えて、年齢も30歳より84歳の、顔のシワは増えても心のシワは全く若々しいマスターズ柔道愛好家400名、延べ600名が、賑やかに秋田県立武道館に参集いたしました。

まず初日は形。50組の出場。

貝瀬輝夫形審査委員長のご挨拶。選手代表宣誓は地元秋田の今立篤子理事。昨年第4回姫路大会の懇親会では秋田への参加を呼びかけ、今回は代表宣誓を行い、結果は別添の通り「五の形」は岐阜の黒田美千子さんと「柔の形」では石川の長崎桂子理事と、そして極めつけは昨年国体での模範演技と同じくご夫君の孜さんと、3種目共、ゴールド

形の部でもう一つ 有田早苗理事のエピソード。小生は 当日開会前に審査委員会議に出ていましたら 救急車のサイレンの音 会場に行く
と誰か倒れているので覗いてみると顔面蒼白 辺りに多量の血の海？ これは大変 マスターズ大会に初めての？？と小生も血の氣を失った！それが「極の形」で表彰台の一番高い段上に登り 栄光のゴールドメダル・・・乞うご高読ご本人の玉文。

中日は 年代別体重別個人戦。関根忍審判長のご挨拶。続く選手代表宣誓は青森県柔連会長82歳太田尚充相談役にお願いする。一昨年は片道25

時間地球の反対側のブラジル大会へ　また昨年はベルギー大会へ　ナポレオン終焉のワールロー　ライオンの丘では228段の階段を難なく踏破され同行の元氣高齢者連も驚嘆すること頻り。

この日は最多人数が集合する日 加えて国際大会と銘打った故 開会式では英語でも歓迎の辞を表明する。外国からの参加者には知柔会（愛知県知多市柔友会）講和第4集英文併記の「一本足の柔道」(EL AMINGO STYLE JUDO) を贈呈いただいた安田哲雄先生に代わって ニュージーランド 15 名代表 RICK LITTLEWOOD 並びにブラジル参加 2 名代表松本淳君に授与。

更に今回は
先生の更な
るご厚意で
新著「草魂」

全約200冊を
形並びに個
人・団体戦
の優勝者に
それぞれ贈
らせていた
だいたこと
を先生への
敬意と深甚

秋田さきがけ平成20年10月18日

今立鯨形で3冠

[illegible]

枝の鮮やかさなどを競い合った形の部

の感謝でご報告いたします。
併せて創立第5回大会を記念して 80歳以上の生涯柔道生涯現役を貫いておられる先輩の方々へマスターズ栄誉賞



マスターズ栄誉賞にふさわしく秋田柔連に選んでいただいた百獣の王ライオン像を手に
左から太田尚充(青森82才)・上島彬(大分83才)・美濃岡清三郎(兵庫84才)の3選手

を贈ることにいたしました。

中日夜は キャッスルホテルでの懇親会。

美濃岡最長老のマスターズ大会を讃え併せて主管の秋田柔連のご苦勞を労う乾杯のご発声で150人を超える大会場は 初日と中日の戦果の熱気が話題に加わり際限なく盛り上がる。時はあつ



賑やかなパーティ会場 国際色が一段と際立つ

という間に流れマスターズ大
会旗は秋田柔連 伊藤綏之副
会長より小生を経由して次回
開催地大分よりの上島彬相談
役に手渡され 来年の大分での
の再会を約して 高らかに万
歳三唱して散会した。

前夜の懇親会から翌朝の開
会式までの時間の早いこと。
選手代表は 84歳美濃岡最長
老の力強い『選手宣誓!』の
一言。年代別無差別個人戦の
圧巻は最長老のお三方の三つ
巴戦。

更にファイナレは団体戦
男子は各年代2人ずつ5世代
10人制 女子は無差別3人。
出場は男子7チーム 女子は
2チーム。チームは少数なる

も最終日 出場者
者はそれぞれ遠隔地をものとも
せず遠征参集の一騎当千の精鋭揃いで必勝の
気が漲っている。
男子は 兵庫の柔連会は優勝
チームだけに流石粒揃い 特に
小生が対戦した栗村曜似大將は

39年全日本出場者に名が連ね
られている寝技の名手。対戦
相手は皆抑えられている。小
生抑えられてはと警戒するも
マサカの踵をつかまれ尻もち
をつき効果!「流石、かつて
の全日本、参りました!」

他に全日本出場者を挙げる
と 滋賀連合チームにスカウ
トされた 48年出場の高橋富
士男選手(宮城県)。またこ
のチームには 世界選手権の
村田正夫選手も。そして更
に全日本出場者を挙げれば
鷹尾健治(国重敏明ご令兄と
の兄弟出場で有名)選手に57
年出場のト部秀幸選手。ト部
選手は小生の出身地佐賀で同
郷である。今後は 全日本出
場の嘗ての有名選手が更に多
くご登場され 後進の立派な
模範となつて健全育成に繋げ
て欲しいものであります。

この好例が大阪の栗本忠弘
常務理事。05年フランス・ト
ウルでの第8大会でM8・
90KGで見事な内股と 払腰で
鮮やかに決めてゴールドメダ
ル。その様子がNHK関西T
Vで他のエピソードと共に紹
介され その折少年時代の石
井慧君を指導されたとも紹介
されていたものである。秋田

大会に出場すると聞いた時昨
年秋大きな自動車事故で大変
な目に遭われ 未だ後遺症で
首や背中が痛いといっていた
ので止めたほうがいいのでは
とアドバイスしたが 長男も
出場するので親の自分が止め
るわけにはいかないとのこと
でご出場となった。II世はM
2・100KGと無差別級に出場。
更に団体戦では我が渋谷・混
成チームの次峰に出場 チー
ムのブロンズメダル獲得に大
きく貢献してくれた。以前イ
ギリスへ柔道に行った経験を
生かしてこれから鍼灸の指導
に渡英する予定と聞く。父子
鷹の典型例で 子は親の後ろ
姿を見て育つといわれるが栗
本さん親子は正にこの通りで
頼もしい限りである。

その他色々のエピソードを
多々ご紹介したいが 紙面に
限りがあるので次の機会に。

閑話休題。

お陰を以ちまして マスターズ
創設第5回記念国際大会も
多くの参加者と審査・審判
の諸先生の見事なご采配と主
管していただいた秋田県柔道
連盟の役職員の皆様の絶大
なりリーダーシップとご協力に

より 盛大に恙無く終了いた
しましたこと正に心よりの感
謝を申し上げます。

世界マスターズ大会も第10
回を終了 次回11回大会の開
催がやや不透明のようですが
両大会共 『参加者の 参
加者による 参加者のための
マスターズ大会』を大きなス
ローガンとして共に歩いて参
りました。茲に第5回並びに
第10回と丁度節目の大会が終
了いたしましたので 次の新
たな大きな前進のため 小生
会長のバトンを渡すことにい
たしました。不束ながら ゼ
ロからの進発で手探りで覚束
ないながらも務めることがで
きましたのもマスターズ会員
皆々様のご懇篤なご指導の賜
物以外にありませんし皆々様
のマスターズ柔道に対する思
い入れの真摯さ以外にありま
せん。これで小生終わりのい
うのではなく 上述のように
年齢で大きく先行されている
諸先輩の生涯柔道の後塵を拝
して参りたいと念じておりま
すので 今後共何とぞよろし
くご指導ご鞭撻の程お願い申
し上げます。

謹白

第五回大会のメダリスト

形部

投の形

- ①鈴木基(秋田)・野本義継(秋田)

固の形

- ①金田稔(山形)・伊藤和範(山形)
②植木良男(栃木)・養和田功(栃木)
③中島忠(埼玉)・杉原尚(茨城)

極の形

- ①有田早苗(栃木)・海老沼一勝(栃木)
②一瀬誠(静岡)・竹内紀久夫(静岡)
③榎本好根(愛知)・春日井和幸(愛知)

柔の形

- ①今立篤子(秋田)・長崎桂子(石川)
②上野和香子(北海道)・岡本敦子(北海道)

護身術

- ①一瀬誠(静岡)・竹内紀久夫(静岡)
②内藤純(栃木)・植木良男(栃木)
③春日井和幸(愛知)・中村太(愛知)

五の形

- ①黒田美千子(岐阜)・今立篤子(秋田)
②清田千亜希(石川)・長崎桂子(石川)
③鈴木一平(福島)・清家春夫(千葉)
④安河内浩(東京)・杉原尚(茨城)

古式の形

- ①今立篤子(秋田)・今立孜(秋田)
②清水正敬(東京)・清家春夫(千葉)
③大宮民子(愛知)・黒田美千子(岐阜)

年齢別体重別個人戦

男子の部

- M1 (30〜34才) 60 kg ①漆畑健(千葉)

- ②後藤雄二(山形) ③佐藤政美(宮城)
M1 66 kg ①森川卓也(青森)

- ②安藤明仁(宮城) ③三島治貴(宮城)
中山幸久(大阪)

- M1 73 kg ①佐藤真生(宮城)

- ②小玉大宇(愛知) ③富樫豊一(秋田)

- 神谷辰彦(秋田)
M1 81 kg ①田中博幸(石川)

- ②菅野隆行(岩手) ③田中武雄(青森)

- 高岡浩平(石川)

- M1 90 kg ①千葉記位(神奈川)
②天間明彦(青森) ③高橋健(秋田)

- 清水達生(群馬)

- M1 100 kg ①阿部文智(宮城)

- ②豊川孝将(青森) ③名越裕晃(愛知)
高橋哲史(秋田)

- M1 100 kg ①前田豊(愛知)

- ②木村光尋(愛知) ③松原勝利(高知)

- 小林弘幸(埼玉)
M2 (35〜39才) 60 kg ①鈴木政明(栃木)

- M2 66 kg ①松本淳(滋賀)

- ②石戸信吾(秋田) ③仲野谷勝洋(秋田)
田(日下弥寿彦(東京)

- M2 73 kg ①宮本功三(東京)

- ②石戸将太(秋田) ③野本義継(秋田)

- 内田正壽(宮城)
M2 81 kg ①上原貴士(愛知)

- ②長谷川靖二郎(大阪) ③鈴木基(秋田)

- 田(福沢徹(山形)

- M2 90 kg ①笹谷敏明(北海道)

- ②有馬昇(秋田) ③緒方正憲(福岡) 岩田竜一(大阪)

- M2 100 kg ①山田公一(秋田) ②

- 齊藤孝弘(秋田) ③進藤健吾(秋田) 中川久幸(愛知)

- M2 100 kg ①松山尚浩(福岡)

- ②貴志昌浩(愛知) ③熊谷孝寿(秋田) 川越貴文(秋田)

- M3 (40〜44才) 60 kg ①齋木直利(山形) ②高山郁生(静岡) ③小玉勉(兵庫) 金野雄(岩手)

- M3 66 kg ①奥超雄(東京)

- ②鎌田力(東京) ③今嶋禄郎(大阪)・玉田誠(兵庫)

- M3 73 kg ①野口修(大阪)

- ②原幸輝(愛知) ③岡村忠彦(東京)
長谷川浩(東京)

- M3 81 kg ①戸澤敏之(秋田)

- ②高野賢司(東京) ③早坂一彦(宮城)
伊藤大介(秋田)

- M3 90 kg ①檀上竜二(愛知)

- ②伊藤剛(秋田) ③鈴木禎(東京)

- 佐藤記一(青森)

- M3 100 kg ①亀井隆平(東京) ②

- 山本典実(愛知) ③岸部俊一(山梨) 原口正秀(福岡)

- M3 100 kg ①柴田昌一(山形)

- ②窪田智之(愛知)

- M4 (45〜49才) 60 kg ①村上富儀(高知) ②佐藤正弘(鳥取) ③小原恒之(岩手)

- M4 66 kg ①梶泰章(神奈川)

- ②平野健太郎(千葉) ③岩佐修(福岡)

- 古城光展(大阪)

- M4 73 kg ①上田一美(愛知)

- ②及川賢一(岩手) ③丹清宏(秋田) 竹内紀久夫(静岡)

- M4 81 kg ①北条博嗣(高知)

- ②金指邦浩(静岡) ③西村一晃(滋賀)

- 国吉真登茂(神奈川)・

- M4 90 kg ①工藤克之(秋田)

- ②畑中孝一(青森) ③森本正則(滋賀)

- 山田大三(東京)

- M4 100 kg ①伽羅谷健一(秋田)

- ②対馬勝英(青森) ③堀川信幸(石川)

- 鈴木一平(福島)

- M4 100 kg ①中泉勝(秋田)

- ②村上隆志(青森) ③木村忠彦(兵庫)

- 登藤寿(秋田)

- M5 (50〜54才) 60 kg ①福岡幹雄(神奈川) ②北尾浩(兵庫) ③飯尾馨(東京)

- M5 66 kg ①佐々木政彦(埼玉)

- ②渡邊千代志(宮城) ③八木正爾(三重) 養父洋介(兵庫)

- M5 73 kg ①倉野祐一(岐阜)

- ②平井敏雄(兵庫) ③毛利一三(兵庫)・小竹邦元(福島)

- M5 81 kg ①田所英幸(栃木)

- ②眞松寛(東京) ③青山勇人(秋田)

- M5 100 kg ①清野洋一(宮城)

- ②伊藤好之(山形) ③G・レイノルド(NZ)・中川博文(兵庫)

- M5 100 kg ①長須賀明彦(神奈川)

- M6 (55〜59才) 60 kg ①坂井路雄(兵庫) ②鍋浦正(香川)

- M6 66 kg ①羽沢幹生(秋田)

- ②守屋栄吉(岩手) ③田中茂(東京) 原優(東京)・

- M6 73 kg ①金田求(東京)

- ②三上貴士(東京) ③浅田三男(神奈川)・高橋和裕(神奈川)

- 6 81 kg ①上木保男(千葉)

- ②高橋信二(岩手) ③太田明男(神奈川) 吉成隆杜(東京)

- M6 90 kg ①神園修一(東京)

- ②山本昭(兵庫)

- M6 100 kg ①雑賀昌盛(兵庫)

- ②足羽裕二(兵庫)

- M6 100 kg ①久保雅昭(東京)

- M7 (60〜64才) 60 kg ①大矢八平(兵庫) ②加藤忠勝(東京) ③三浦孝司(奈良)

- M7 66 kg ①増田洋(大阪)

- ②G・カリン(NZ) ③井田幹夫(神奈川) 柿田豊一(石川)

- M7 73 kg ①島津澄夫(千葉)

- ②濱口國光(愛知) ③久宮登三夫(栃木) 松原哲也(東京)

- M7 81 kg ①諸山和美(愛知)

- ②清家春夫(千葉) ③安藤洋志(埼玉)

- 三橋英夫(神奈川)

- M7 90 kg ①渡辺久義(宮城)

②小池健三(埼玉) ③江崎寛(千葉今立改(秋田))

M 7 100 kg ① G. ミツチエル(NZ) ②吉永豊喜(大阪)

M 7 100 kg ① A. ロベル(NZ) ②後藤勝己(福島) ③原田照夫(埼玉)

M 8 (65~69才) 60 kg ①鬼柳一字(岩手) ②橋春夫(大阪) ③田倉幸夫(東京) ④相田盛良(長崎)

M 8 66 kg ①湊谷公(富山) ②岡本美臣(東京) ③中嶋忠(埼玉)

小西正弘(千葉) ②鈴木純(栃木)

M 8 73 kg ①内藤純(栃木) ②鈴木純治(埼玉) ③西尾勝彦(奈良) ④二村雄次(愛知)

M 8 81 kg ①池田正男(兵庫) ②鈴木治雄(千葉) ③国本武信(大阪)

大塚治城(神奈川) ②今里宏一郎(東京) ③R. リトルウッド(NZ) ④渡部耕四郎(秋田)

M 9 (70~74才) 60 kg ①永島健次郎(千葉) ②岡田庫二郎(兵庫) ③杉原尚(茨木) ④福盛田立明(神奈川)

M 9 66 kg ①山本健夫(東京) ②中政利夫(東京)

M 9 73 kg ①野口宏水(東京) ②中井司朗(奈良)

M 9 81 kg ①尾辻邦治(東京) ②副島正秋(神奈川)

M 9 90 kg ①駒井和雄(北海道) ②奈良澄(愛知)

M 9 100 kg ①工藤兼雄(秋田) ③吉田昭治(75~79才) 66 kg ①吉田昭治

(東京) M 10 73 kg ①高橋勘十(岩手) ②安河内浩(東京)

M 10 81 kg ①岡田敏雄(宮城) ②後藤勝己(福島) ③原田照夫(埼玉)

M 10 90 kg ①森本唯行(神奈川) ②P. トナー(NZ)

M 11 (80才以上) 73 kg ①美濃岡清三郎(兵庫) ②上島彬(大分)

M 11 90 kg ①太田尚充(青森)

女子の部 F 1 52 kg ①後藤智栄美(山形)

F 2 52 kg ①三谷玲子(神奈川) ②西村めぐみ(兵庫)

F 3 48 kg ①山内久美(神奈川) ③西尾勝彦(奈良)

F 3 52 kg ①梅本智子(神奈川) ②北由美子(石川)

F 3 63 kg ①難波浩子(岡山) ③板花彩(山形)

F 3 78 kg ①南埜千賀(奈良)

F 4 52 kg ①村上さとみ(青森)

F 4 57 kg ①齊木志津子(神奈川)

F 6 52 kg ①今立篤子(秋田)

F 6 63 kg ①長崎桂子(石川)

F 7 57 kg ①山田公一(秋田) ②松山尚浩(福岡) ③栗本大士(大阪) ④笹谷敏明(北海道)

年齢別体重無差別個人戦

M 1 ①木村光尋(愛知) ②生田祐介(愛知) ③小林弘幸(埼玉) ④大沼喜照(秋田)

M 2 ①山田公一(秋田) ②松山尚浩(福岡) ③栗本大士(大阪) ④笹谷敏明(北海道)

M 3 ①小坂重人(秋田) ②亀井隆平(東京) ③伊藤大介(秋田) ④戸澤敏之(秋田)

M 4 ①高橋洋一(埼玉) ②伽羅谷健一(秋田) ③重森敏行(愛媛) ④畑中孝一(青森)

M 5 ①卜部英幸(愛知) ②井出宗治(滋賀) ③中川博文(兵庫) ④阿古裕弘(奈良)

M 6 ①吉成隆杜(東京) ②上木保男(千葉) ③久保雅昭(東京) ④神園修一(東京)

M 7 ①高橋富士夫(宮城) ②片桐清司(滋賀) ③吉永豊貴(大阪) ④B. ミツチエル(NZ)

M 8 ①鷹尾健治(香川) ②鈴木純治(埼玉) ③五十嵐徳英(千葉) ④西尾勝彦(奈良)

M 9 ①栗村曜似(滋賀) ②奈良澄(愛知) ③山本健夫(東京) ④岡田庫二郎(兵庫)

M 10 ①高橋勘十(岩手) ②岡田敏雄(宮城) ③安河内浩(東京) ④原田照夫(埼玉)

M 11 ①太田尚充(青森) ②美濃岡清三郎(兵庫) ③上島彬(大分)

F 1 ①西村めぐみ(兵庫)

F 6 ①齊院志津子(神奈川) ②今立篤子(秋田)

団体戦 男子

①柔錬会(兵庫) ②栗村曜似、中井司朗、中村古、大矢八平、山本昭、難波浩子、楠本智子

昌盛、平井敏雄、木村忠彦、竹谷俊幸、松村正隆

②滋賀連合(滋賀) ③高橋勘十、安河内浩、吉永豊貴、高橋富士夫、古山仁、井出宗治、森本正則、村田正夫、古川克二、松本淳

③渋谷混成チーム(東京) ④野口宏水、尾辻邦治、清水正敏、五十嵐徳英、小西正弘、吉成隆杜、鈴木一平、佐藤景三、栗本大士、長谷川靖二郎

③秋田連合(秋田) ④工藤兼雄、内藤忠、相場重和、村上正行、工藤克之、小坂重人、川越貴文、齊藤孝弘



団体戦男子優勝の柔連会(兵庫) チームの皆さん

地元の 会員の方から

マスターズ大会を 振り返って

秋田県柔道連盟

副会長 工藤兼雄

本大会は第5回という節目の記念大会として、諸外国にも広く参加を呼びかけ、国際大会と銘打って開催しましたところ、お陰様で多数の参加申込みをいただき、そして無事盛会裡に終えることが出来ましたことは、主管者としてホツと致しているところであります。

初日(十七日)は、形の演武七種目に覇を競う姿を審査員として拝見させていただきましたが、どの形の演武者も、技、礼法、全体の流れなど全てにおいて、熟練と精進された妙味が見られ、甲乙つけがたい演武に、万雷の拍手であつた。

二日目(十八日)の体重別個人試合では、各県の



2人組で女子優勝のデコダス(神奈川)



健闘をたたえ合う。勝者を讃え、敗者を思いやる」。真剣勝負は全試合に貫かれ、礼節を重んじる武道の精神、指導者としての律義は範として多

の柔道会場として熱氣と興奮に包まれた会場であり、大道場は八面、小道場は三面の公式試合場が確保され、国内でも自慢出来る武道館で、競技役員は一般の連盟役員と中体連、高体連の柔道専門部の先生方を中心とするスタッフで構成され、一昨年の全国教員大会や国体の経験が効をなすスムーズな大会運営がなされたことは、感謝にたえない。

三日間にわたる奉仕活動に労を多として称えたい。

小生図らずも、本大会に親子（四十代と七十代）で出場の機会に恵まれ、個人及び団体戦に参加出来たことは筆舌

野口宏水会長さんが自ら柔道衣姿で出場し、マスターズ柔道に賭ける情熱と気魄が、同世代の柔道愛好家の心を揺さぶるとともに、生涯柔道を通して交歓できる世界マスターズ大会が、テレビ、新聞等の広報活動によって、世界に発信され更に大きな輪となつて飛躍発展されますことを切にご祈念申し上げます。

最後に、大会役員皆々様のご健勝と国体にも劣らない感動と夢を与え、友情の輪が繰り広げられたことに感謝を申し上げ、また、めでたく入賞の栄に輝いた皆さんに心からの讃辞を送り、来年度の開催地大分県での再会を楽しみにお互いに己を鍛え、精進を重ね合うことを願い御礼といたします。

合掌

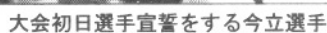
第5回記念として「国際柔道大会」を冠して開催された秋田大会でした。主管地として大変な榮譽と受けとめ、「わか杉とまごころの秋田」の名に恥じない歓迎と競技で盛り上げようと心しておりました。選手・会員の皆様には秋田の印象はいかがでしたでしょうか。

野口会長から「初日の選手宣誓をやってください。」と言われたときには「私のような者が・・・。」と、できれば

辞退しようと思いましたが、熱心なお勧めで引き受けしました。しばらく悩んでおりましたが、夫や県柔連の方々に協力していただいて練習し

私は形競技で、五・柔・古式の三種に出場しました。結果は三つとも金でした。自分でもびつくりしています。周りの人から、「おめでとう」の声をかけられ、とても嬉しく思いました。相手の方々のおかげであり共に喜びをかみしめました。私自身は「地元でいい加減なことではできない」一心で大会に臨みましたが、この結果で無事役目を果たす事ができた安堵感の方が強かったです。

三日間を振り返つてみますと、本県の選手が形や個人、団体試合に多数参加し大活躍しておりました。皆それぞれ



していたのが印象に残っています。地元では一般の選手が出場する機会が少ないので、この大会に寄せる期待は大きいものでありました。その意味で本県の柔道振興に大いに貢献

しましたし、ひいては、本大会の目的に適ったのではと思います。

「国際大会」と銘打つての秋田開催でしたが、地元の参加者としては「記念」にふさわしい大会になったのではないかと喜んでおります。大会全体を見ますと、参加者が多かっただけでなく、会場や懇親会場のあちこちで楽しく交流し合う場面が見られ、まさに生涯柔道を実践している柔道人の心意気を感じられました。皆さんのパワーに敬服しました。私も柔道のおかげでたくさんの人々と交流ができ、学ぶことが多かったことに感謝して今後共精進して参りたいと改めて思いました。

来年の大分大会で、また新たな感動をいただきたいと思っております。皆様との再開を楽しみにして筆をおきます。

ベルギーと秋田の

両大会に参加して

高橋 富士男

(宮城県)

世界マスターズ大会への参加は二度目である。今から五年前の講道館で開催された第

五回大会にも出場した。もちろん国際大会など縁のなかった現役時代であったので、世界大会が日本で開催されるということは大きな魅力であった。そしてなにより予選がなく誰でも出られるのがいい。

その時は二十五年ぶりくらいの試合なので相当に緊張していたらしく試合当日は講道館のアップ会場には一番乗りであったと思う。名古屋から来られた紙谷道場の紙谷建生先生も早く、初対面なのに、頑張りましょう、とか言っている。二人で打込みをしたことを思い出す。(紙谷先生の息子さんが北京五輪柔道のチームドクターかと)

さて、五年ぶりの出場となった本大会、無事にベルギーに到着しホテルで荷物を解いた。同室は滋賀県、虎道館の片桐清司先生である。同い年であったのですぐに気心も通じたが、ただだけ違うところがあつた。それは彼のフンドシ姿である。先生は体重が数キロオーバーして、ホテルのサウナで必死の減量をしていたが入り口にはフンドシがひらりと落ち

ていてすぐ入浴中がわかる仕掛けとなっていた。翌日の体重計量の際にも、他国選手の目を気にするどころか、ニッポン人魂そのままに威風堂々とフンドシ姿一本で体重計に乗り見事に計量をパスしたのであつた。

その後にアップ会場で片桐先生と初めて打込みをすることになるが、五年前の紙谷先生との出会いといい、初めてお会いしても道衣を着て打込みなりなんなり相手の道衣を掴むことによつて気持ち引き締まるというか、通じるといふか、これが柔道の素晴らしさであることを実感した。

ベルギー大会には世界各国から千三百名が集まったと言うが、日本選手団も多士済々の面々であつた。何より野口会長自らの意気込みが素晴らしい。日本マスターズ大会でもそうであつたが道衣を着ての会長あいさつなんてそうあるものではない。青森県柔連会長の太田先生は八十二歳、岩手の高橋勘十先生の喜寿しかりで何か秘薬でも、と疑いたくなるような元気さである。

金沢からの長崎先生は娘さんとの形やら試合やらと親子で頑張っていたし、また、日本人選手による三つ巴のバトルには観客席からも拍手が沸いた。いろんな思い出と出合いをいただいたベルギー大会であつた。

実はこの大会で今年は終わりにしたかったのであるが、今年の日本マスターズ大会が秋田県開催であり、同じ東北なのだから声を掛けて集まってくれ、と野口会長や清家副会長、清水副会長からも言われて逃げれなくなつてしまった。そんなことから日本マスターズ大会には初めての参加となつたが、秋田県には知り合いも多いので前日のパーティ



M7無差別の表彰式の後で 左から吉永・ミッチェル(NZ)・片桐・高橋の各選手

で冷やかされたりで、そのプレッシャーからかいつもより多くのお酒をいただいたの就寝となつた。

翌日の試合は個人戦と団体戦とで一日に六試合もしてしまつたので翌日の筋肉痛も予想どおりのものであつたが、なにか現役時代に戻つたような錯覚もさせてくれる心地よさもあつた。

この大会には四月の全国高段者大会に出場している方も多くおられたと思うが、年齢別で体重別もあるこの大会は大きな魅力のある大会として加わるべくして加わつたものだと思ふ。個人的には三十五歳くらいからでもいいのかな、との思いはあるが、いずれにせよこれからホップ、ステップ、ジャンプと本大会が成長、定着していくことに仙台からも仲間とともに応援をしてまいりたい。

野口会長以下、各役員の先生方のご尽力に心からの感謝である。

会員便り

秋田大会に参加して

美濃岡清三郎
(兵庫県)

(兵庫県)

この度第五回記念

日本マスターズ国際
柔道大会秋田に参加
させて頂きました。

大会開催に先だち本
大会の多くの熟年柔
道愛好家が集まる中
最高年齢者として八
十四歳の私に、柔道

の発展と長寿高齢の進展に伴
う生涯スポーツの必要性、そ
して生涯現役の柔道を樂しむ
ようにと、マスターズ榮譽賞
を頂きました。これからも元
氣老人になる事を望まれて生
涯柔道をたのしく健康と長寿
を共によろこび今後の人生に
おける希望を活力に繋げる事
を誓います。

二日目73 kg級の量の上では
存分に發揮。生涯柔道を通し
て健康と長寿を共に試合場に
あがり真剣に戦うさま、又自
身久し振りに試合場に立つて
若き日を覚え緊張感を味わっ
た。正々堂々と競技を行い金



メダルを獲得しました。人生
の坂道を柔道と共に越え永久
に心に残る場所となりました。
夜は懇親会に。同好の交流
場にして、試合に命を懸けて
戦ったマスターズ同志が戦い
終わって新しい友情がはじま
り、交歓の感動の
場とすることが出
来ました。私は県
代表の挨拶と終り
に万歳三唱を指名
されました。

本大会の最終日、
年代別体重別個人
戦をする全選手が
集まりその中から選手宣誓を
した。試合は無差別M11クラ
スにて青森県柔道協会々長太
田八段先生、日本マスターズ
協会顧問上島先生と戦いまし
たが太田先生に破れ銀メダル
獲得しました。名残おしみ乍
ら再会を楽しみに。

日本マスターズ柔道協会々
長野口先生、主管秋田柔道連
盟の皆様、審査、審判の諸先
生、大会役員の方々有難うご
さいました。厚く御礼を申し
上げます。第六回大分大会を
たのしみしております。

衝撃と感動

「極の形」3度目の優勝

有田 早苗
(栃木県 理事)

16日夜半現地に到着。明日は
勝つぞ。相棒・海老沼一
勝3段とカツ井。

昨年心臓細動による不
整脈、脳動脈狭
窄による脳虚血
発作、脊椎官狭
窄による脚萎縮・

跛行という三重
苦を押しつけて
の出場で思い入
れ一際強いもの
がありました。

朝8時開場と同
時に会場入りし
て早速確認練習
開始！

「本気で来い！
痛いのはこっち持ちだ！」の
檄迄はいい気分……

『グチャ！』無意識に右手
を左手が掴むと同時に、血が
噴出し慌てて場外に避難して
右手を抱えこむ。飛んで来た
「受」に道場の血を拭くよう
にと依頼。

「極の形」立会・切下、受
が木刀で大上段から切り込ん
で来るのを捌き損ねて、何故



中央が有田選手、向かって右が海老沼選手

だ！右手薬指と小指の間を切
り裂き、心臓細動・脳虚発作
の投葉の關係で出血がひどく、
小指は垂れ下がり、貧血起こ
して、気持ち悪くなりダウン。
何んと！意気地ないことか。
己に渴！

安河内先生が覗き込んで

「この人持病が
あるぞ」の一言
に、胸が「キュー
ン」

主催者の配慮
で救急車にて搬
送、市立秋田総
合病院整形外科
の医師に、試合

があるので急い
で欲しいと告げ
ると「試合と子
指とどちらが大

切か、お歳から
お分かりでしょ
う」と諭され、

27針の縫合治療を受けること
になりました。

秋田柔連の三浦雅幸先生と内
藤純先生令夫人に付き添いい
ただき、終始ご面倒をいただ
きました。ご温情に衷心より
恐縮と感謝です。

緊急治療をそこそこに、急ぎ
会場へ戻ると既に、「五の形・
護身術」は終了して、棄権と

なっていました。受の海老沼
選手の心情を察するに、残念！
無念！断腸の思い熱く！慙愧
の念胸を圧す中……

「極の形」最終組、私達の
出番となり、担当医・主催者・
ご心配をいただいた清家先生
始め参加の先生方の出場辞退
の勧めを飲み込み、真剣に

「鋭く、素早く、力強く」を
旨とし、受の海老沼一勝選手
の堂々たる真つ向勝負に感動
しながら、「極の形」に挑み、

第1回、第3回大会に続く、
決死の金メダル獲得となりま
した。「一生燃焼・一生感動・
一生不悟」近所の「相田みつ
を」さんの作。

私達は何時も「真剣に果し
合い」の気概で向き合い、練
習中に時には、顔面や股間等
に痛みを受けることもありま
した。でも、今回は何故か！

全く予知外の偶然に遭遇し呆
然としたものです。怪我・年
齢・優勝の連鎖が驚異として、
地元新聞の「それでも出場・
何故？」の取材に、これぞ野
州魂と！

恵林寺山門での快川紹喜
「安禅は必ずしも山水を須い
ず、心頭滅却すれば火自涼
し」が脳裏を走りまわった。

来年は古稀。人生晩年の譽れで、是れ正に「男子の本懐」と自画自賛です。

癌からの生還

ガンガンいきます！

鈴木 禎

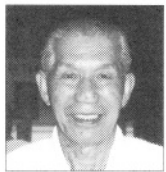
(埼玉県 理事)



前回姫路大会後の初冬に体調を崩し、診断の結果『悪性リンパ腫』という血液の癌と宣告されました。その時は生死の間で『もう道衣に着替え青畳に立

大分大会へ歓迎のことば

当協会相談役 上島 彬



会員のみなさん、ご機嫌は如何でしょうか。人生50年は60年前、現代の平均寿命は女性が86歳、男性が78歳だが、江戸時代は35歳から40歳、戦国時代の上杉謙信は49歳で脳卒中、武田信玄は53歳で肝臓ガンで死んだと言われています。

徳川家康は75歳で長生き、起きると自分で脈、薬は自分で調合、たばこは嫌いで、健康に気を使っていました。情報に振り回されず、自分に合った健康法を見つけることです。

『貯金↓貯筋』 お金は使うとなくなり、筋は80歳を過ぎてからでも効果は現れます。私は

つことも出来なくなるか...。』と肚を決めかけましたが、半年に及ぶ入院治療の甲斐あり現在は寛解する事ができました。直に治癒に至れると思っています。

こうした中で秋田大会に出場できたことは自身にとってこの上ない喜びでした。加えて試合に於いてM3・90kg3位入賞することもできました。これからも柔道ができる『歓び』を噛み締めつつ、健康に気を付け歩んでまいります。ありがとうございました。又、来年迄。以上

トピックス

①内藤純(栃木県)さんが、足利市体育協会柔道部長として、『平成20年度の足利市民スポーツ賞』を受賞されました。



大正13年生まれで来年は85歳です。現在はマスターズ陸上でハンマー投、三段跳等やっています。バドミントンは週3回(火・金10時~13時)、社交ダンスはインストラクターとして20年余、外にレクリエーションを福祉施設で指導、シルバー野球...。

来年は大分大会です。

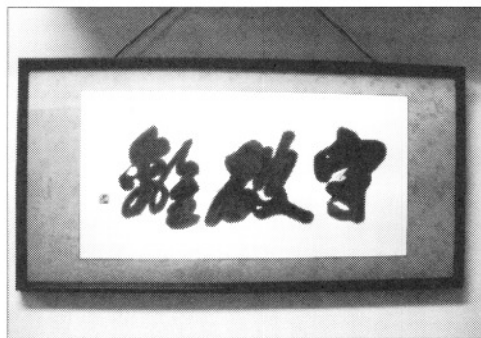
別府温泉、ゆう出口3800余か所、昼夜のゆう出量10万キロリットル(55万石)、その規模じゃ名実ともに世界一です。

どうぞご家族でおいで下さい、お待ちしております。



大会中日パーティ席上大会旗が上島相談役へ

②杉原尚(茨城県)さんから書(写真)をお寄せいただきました。



以下はその添え書きです。

武道の修行における守破離について

昔は武道修行上の進展に応じて『切紙』『目録』『免許皆伝』といった資格を与え、技倆の進展を評価した。又修行の段階を説明するには、守破離という語を用いた。

一、守という段階
師の教えを正しく守り忠実に学びまねる段階

二、破という段階
修行は進み鍛錬功を積み師の教えにこだわることなく、

の教えにこだわることなく、

自らの創意工夫と研究を重ね自己の個性を生かす段階
三、離という段階
修行は更に進み、自由自在に自ら悟るいわゆる自得悟道の境地に入る段階

(平成20年講道館夏期講習会第一部講師醍醐敏郎十段の講義より要約)

【編集後記】 節目の第5回大会も、秋田柔連の方々のご尽力のおかげで、沢山の感動をもたらしてくれたことが、お便りから良く分かります。

野口会長のご挨拶の中でバトンを渡すことにしたとありますが、世界大会については大きな変化の年になりそうです。IJFも今年から、マスターズ大会を開催することになり、第一回はドイツでと報告されています。従来の世界マスターズは開催地がハンガリーからアメリカに変更になりましたが、詳細は決まっております。状況については分かり次第ホームページでお知らせいたします。

では、今年も楽しい生涯柔道を合言葉に、よろしくお願いたします。(KN)
(題字は野口会長の揮毫です)